

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.39
2010.11

くしろ丹頂



「この国のかたち」を問う道民総決起大会（札幌市民大ホール）

C O N T E N T S

- TPP交渉緊急全国集会 茂木守JA全中会長挨拶 ————— 1
- 地域社会のあり方等
「この国のかたち」を問う道民総決起大会 ————— 2
- 平成22年度 秋季地区別懇談会 ————— 3
- 釧路管内青年部アームレスリング・カラオケ大会 ————— 4
JAくしろ丹頂女性部・青年部合同 牛乳消費拡大運動
- 普及センターだより ————— 5
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 家畜販売市況情報 / 退職者 — 7



農業用廃プラスチックの搬出作業（11/5鶴居）

TPP交渉への参加に反対し 日本の食を守る緊急全国集会

茂木 守 JA全中会長 開会挨拶 (11月10日 東京・日比谷)

昨日、菅内閣は「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定しました。このなかで、環太平洋連携協定、すなわちTPPについて、交渉の参加・不参加は先送りにしたものの、「関係国との協議を開始する」と判断しました。

このような判断は、全く遺憾であります。改めて申し上げるまでもなく、我々はTPP交渉への参加には反対であり、絶対に認めることはできません。TPPは、関税撤廃の例外を認めない完全な貿易自由化交渉です。しかも、交渉参加国は、米国、オーストラリア、ニュージーランドのような世界最大の農産物輸出国です。

これらの国に対して、わが国の農林水産分野は十分すぎるほど国を開いています。これ以上、国を開けと求められるいわれは全くなく、農山漁村の現場実態からして、到底納得できるものではありません。例外を認めないTPPを結べば、日本の農業も、漁業も、林業もすべて壊滅します。所得が政策で補償されても、輸入は増大し、国内生産が崩壊することは明らかです。

それだけではありません。

TPPが結ばれば、国土・環境の保全、水源のかん養など農林水産業が果たしている多面的機能が喪失し、三百四十万人に及ぶ地方の雇用が失われると試算されています。そのようなTPPを結べば、国民の圧倒的多数が望む食料自給率の向上も不可能となり、政府が目標に掲げる「強い経済」を実現することも、「未来を拓(ひらく)」こともできなくなります。

TPPに関する検討は、菅総理が臨時国会の所信表明演説で唐突に打ち出したものであり、以来、全国の農林漁業者は不安と動揺で、大混乱のなかにおかれました。今でも、TPPとは何か、WTOやEPAとどのように違うのかを、十分に理解していない国民が大多数と言えます。

そのようななか、今週末に横浜で開催されるAPEC首脳会議を理由に、「協議の開始」を決定したのであれば、それは、あまりにも性急で、乱暴な判断といわざるを得ません。TPPは、全国の農山漁村を破壊し、我々の生活そのものを根本的に変えるものだという危機感を、国民全体が共有するだけの、十分な時間と丁寧な説明が絶対必要です。

すでに全国各地で、農林水産団体が連携しながら、集会や要請活動に緊急に取り組んでいます。日本農業の将来を担うJA全青協の盟友も、都内で波状的に街宣活動に取り組んでいます。

政府がTPP交渉に参加するかどうかを判断するのは、今後、関係国との協議を経てからとなります。

この集会に結集した農林漁業団体、消費者団体、地方自治体の代表は、TPP交渉への参加を断固阻止し、わが国農林水産業を守り、安全・安心な食を守っていくという共通の目標を持っています。

本集会を出発点として、我々が先頭をきって、更に大きな国民運動につなげていくよう、お集まりのすべての皆さんに強く呼び掛けます。がんばりましょう!!

『地域社会のあり方等「この国のかたち」を問う 『道民総決起大会』開催



十一月十二日、札幌市中央区・札幌市民大ホールにおいて、『地域社会のあり方等「この国のかたち」を問う道民総決起大会』が開催されました。

日本政府が参加を検討しているTPP（環太平洋連携協定）は、関税が原則撤廃、非関税処置等に関しても完全自由化を目指した場合、米国や豪州といった農林水産物輸出大国など複数の参加により、北海道の第一次産業に計り知れない影響を与え、北海道農業・経済・地域社会の崩壊はまぬがれません。

TPPへの原則反対と、これまで政府の国際交渉の基本理念である「守るべきものは守る」という姿勢を断固貫くという対応を訴えるとともに、地域社会のあり方等「この国のかたち」がいかにあるべきかを道民各層で考える端緒とするために開催されたものです。

大会規模は、全道の生産者（漁業者、林業者、農業者）、消費者団体、経済団体、関係機関合わせて五十六団体、約千七百人が参加し、当JAからは、組合員、役員合わせて十二名が参加しました。

大会では、実行委員長の飛田稔章JA北海道中央会々長より「食べ物は命と暮らしの原点。せめて食料の半分を自給することが必要であり、工業、商業、農林業の均衡ある発展こそ国民、道民の利益にかなう。そして一次産業の多面的機能を損なってはならない。農林水産業と輸出産業を対立させたり、都市と農漁村を分断する動きに惑わされず、オール北海道、オール日本で難局を乗り切ろう!!」と挨拶がありました。また、道農協青年部協議会代表及び道漁協女性部連絡協議会の代表からは、「国民の生命線である農業や、水産業をないがしろにしてほしくない。自由化へは断固反対!!」を訴えました。

また、三項目 ①TPP交渉への参加反対 ②貿易交渉での重要品目への関税維持 ③「このくにのかたち」について、時間をかけて議論を深め、国民の合意形成を図るべき—の三項目の大会アピールを採択し、政府に申し入れることを決め、オール北海道及び阻止に向けて全力で取り組むことを確認し、最後にガンバロウ三唱で結束を誓いました。

秋季地区別懇談会 開催



鶴居・幌呂地区



白糠地区



音別地区

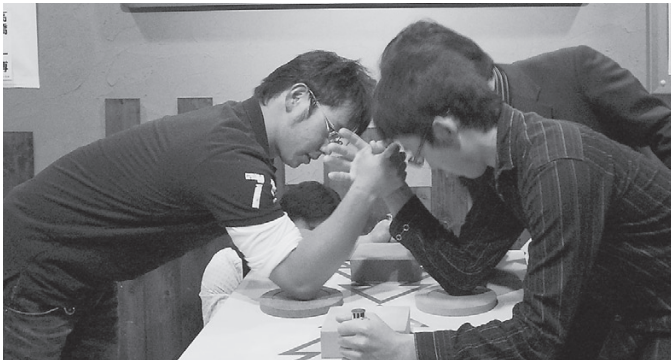
平成二十二年度 秋季地区別懇談会を十月二十一日から二十三日までの三日間の日程で、音別、白糠、鶴居の三会場にて開催しました。農作業などで御多忙の中、三日間で合計三十八名の組合員の方々に出席頂きましたことに対し、ここに改めて御礼申し上げます。

懇談会では、最近の酪農畜産情勢及び今後の見通しについて、下期更正計画について説明し、出席した組合員の皆様方からは、T P P（環太

平洋連携協定）に関する情報と対策、生乳生産及び乳質改善対策、育成牧場の預託体系、家畜改良事業運営、エゾ鹿対策、購買事業運営、乳製品の消費拡大、青年部事業等について農業経営がより安定的に行なわれていくための意見、要望が数多く出されました。

今回出された意見、要望は集約し、理事会において今後の対応等について協議がなされました。

釧路管内青年部アームレスリング・カラオケ大会 開催



アームレスリング大会（大坂 隼人さん・写真左）

十月二十九日、釧路において釧路地区農協青年部協議会主催による、『各単組対抗アームレスリング並びにJA青年の歌「君と」カラオケ大会』が開催されました。

管内各単組より約四十六名の青年部員が参集したなか、当JAからは部員二十一名が参加しました。

アームレスリング大会では、各単組から腕力自慢の代表者が出場し、当JAからは、音白支



JA青年の歌「君と」カラオケ大会（林 稔幸さん）

部・大坂隼人さんが出場し、みごと準優勝に輝きました。

また、カラオケ大会では、音白支部・林 稔幸さんが当JA代表として出場し、JA青年の歌「君と」を熱唱し、第三位と健闘しました。

また、懇親会の中で行なわれたこの大会では、管内青年部員の交流の場、そして情報交換の場としておおいに盛り上がりを見せました。

女性部・青年部合同 牛乳消費拡大運動を実施!!



十一月二十日、イオン釧路昭和ショッピングセンター（ジャスコ）で、JAくしろ丹頂女性部・青年部合同による、牛乳消費拡大運動を実施しました。

女性部・青年部合わせて約二十名の部員により、店内に設けられた特設売り場で、「根釧牛乳」及び「マンゴー酢牛乳」を、買い物客らにあわせて約二千杯分無料配布しました。



おいしいという声が多かった「根釧牛乳」・「マンゴー酢牛乳」

親子で立ち寄り寄るお客さんも多く、「おいしいので、いつも購入しています。」の声や、子供達からもおいしいという声が多く、反応は上々でした。

また、マンゴー酢牛乳は牛乳に酢を加えることで、カルシウムの吸収を助けるという効果があり、骨粗しょう症にも効き健康に良いと、説明を熱心に聞くお客さんからも大変好評でした。

肢蹄の状態と 飼養管理を確認しよう

肢蹄の状態が悪くなると寝起きや移動に影響が出ます。その結果、採食行動を制限し、生産性を大きく下げてしまいます。

肢蹄の状態を確認し、牛の健康状態、飼養管理を再確認しましょう。

◎ 蹄壁（蹄表面）の状態

蹄はツルツルと滑らかですか？
傷が見られませんか？

蹄表面の状態は過去の栄養状態を表しています。傷は過去にルーメンアシドーシス（第一胃内が酸性化している状態）が起こったことの名残です。



写真1 蹄壁の傷

◎ 蹄冠部の状態

蹄の成長は一ヶ月で約5mmといわれていますから、蹄の付け根から3cm程度下に傷があれば半年前にルーメンアシドーシスが起っていたと考えられます。

全体がザラザラとしているのであれば常に軽いルーメンアシドーシス状態にあることを示しています。

蹄冠部（写真2）が腫れたり、赤くなったりしたときもルーメンアシドーシスが疑われます。

このような状況は粗飼料の摂取不足や穀類、配合飼料の過給によって反芻が減少し、ルーメン内が酸性に傾くことよって引き起こされます。

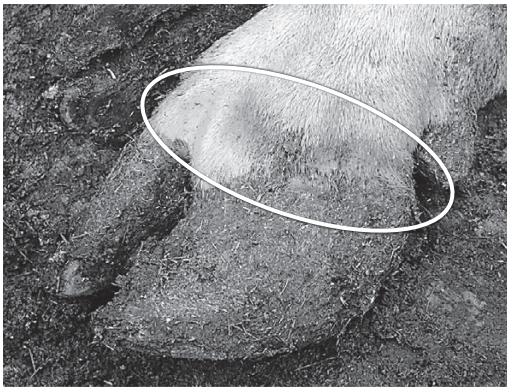


写真2 蹄冠部の腫れ

対応策

①粗飼料の給与量、採食量を再確認する。

○粗飼料の水分変化に合わせて給与量を調整する。

○手持ちの粗飼料の食い込みが良くないときは、粗飼料の代わりにビートパルプなどの繊維を含む飼料を増給する。

○購入粗飼料（アルファルファ、アハイ、クレイングラスなど）の利用も検討する。

②粗飼料の食い込みに合わせて穀類（とうもろこしなど）や配合飼料の給与総量や給与回数（一回当たりの給与量）を調整する。

◎ 飛節の状態

片方の飛節が腫れている場合は、牛床で擦れたり、寝起きに支障が生じているなど施設的なことが要因として考えられます。

両方の飛節が腫れている場合（写真1）は栄養的な要因も考えられます。タンパク質とエネルギーのバランスが崩れたときに見られる、ルーメンの中で早く分解されるタンパク質が過剰になったときに起こりやすくなります。



写真3 飛節の腫れ

対応策

①敷料を増やして牛床の安楽性を高める。

②タンパク質飼料（大豆粕など）や配合飼料の給与総量や給与回数（一回当たりの給与量）を見直し、エネルギーとタンパク質のバランスをとる。

肢蹄の状態変化に留意し、健康を維持することによって生産性の低下を防ぎましょう。

子牛の育成 冬場の飼養管理

朝晩の冷え込みが厳しくなる冬場は、体温調節が上手くできない子牛にとって、体調を崩しやすい時期です。

寒さで発育を遅らせないように、飼養管理に注意を払い、丈夫な子牛を育てていきましょう。

○子牛は寒さに弱い

ルーメンの発達が未熟な子牛は、搾乳牛に比べ熱の発生が少ないことや、体重の割に体の表面積が大きいいため、外気温の影響を受けやすく、寒さに弱い動物です。

飼養環境がプラス十三度を下回ると、子牛は体温を奪われ、体力を消耗し、下痢や風邪にかかりやすくなります。(表1)

表1 乳牛の限界温度(下限)

子牛 (0~40日齢)	+13℃
育成牛	-5℃
乾乳牛	-14℃
搾乳牛	-25℃

※外気温が限界温度(下限)以下になると、生産性が低下する

○冬期の寒さ対策

子牛は、次の体温を奪うような環境で飼育された場合に、寒さを感じ体力を消耗します。

【子牛が寒さを感じる要因】

- ① 伝導熱…冷たい物に触れて奪われる熱
- ② 気化熱…水分の蒸発により奪われる熱
- ③ 放射熱…冷たい物に近づくとき奪われる熱
- ④ 対流熱…動く風に体がさらされ奪われる熱

◆冷たい物に触れさせない

哺育ペンの壁部分に鉄製の物が使われていたり、床面がコンクリートなどの場合は、冷たさが直接伝わって体温を下げてしまいます。寝床部分に子牛が隠れるくらい敷料をたっぷり使う。特に新生子牛の場合は30cm以上確保する。

◆体を濡らさない汚さない

糞や尿などで体が汚れると、被毛の保温力が失われ、気化熱が発生して、体温を奪われてしまいます。

・汚れやすい餌場と寝床部分を明確にして、汚れを溜めないよう、毎日清掃する。

・カーフハッチなど屋外の哺育施設の床面には、雨雪の侵入を防ぐため、敷料を置く前に断熱材を使う(写真1)



写真1 雨雪が浸透しそうなところには、スタイロホームを使いましょう。

◆冷気やすきま風の遮断

施設の壁に隙間があったり、空間が広すぎると、風が通り抜け、子牛の体温を下げてしまいます。

・旧施設の一部を仕切って使っているペンなどは、横壁や天井部分をコンパネや断熱材で覆う。
・ペン内がプラス一三度以下になりそうな時は、電熱器などを使い温度調整を行う。(写真2)



写真2 新生子牛用ペンには電熱器の他温度計、体高測定器が付いていると便利です。

○換気にも気配りを

施設の換気が悪いと、湿気による細菌性の下痢を引きおこしたり、アンモニア臭で呼吸器系の粘膜が刺激され病気の原因となります。天気の良い日は真冬でも、戸や窓を開け換気を良くしましょう。

理事会報告

10月定例理事会

平成22年10月27日（水）

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 9月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. JA全国監査機構監査報告について
6. JAバンク基本方針に基づく「業務執行体制に関する報告」

- 議案第2号 全国酪農業協同組合連合会への出資について
 議案第3号 平成22年度営農振興資金の貸出条件の設定について
 議案第4号 クミカン整理に係る営農振興資金の貸付について
 議案第5号 大口信用供与先等に対する融資の承認について
 議案第6号 固定資産の取得について
 議案第7号 職員就業規則の一部変更について
 ※以上全件原案通り承認されました。

付議事項

議案第1号 JA全国監査機構監査の結果に対する回答について

その他協議事項

1. 秋季地区別懇談会における意見・要望等について

■平成22年度 生乳生産実績（10月）

	月計乳量 (kg)	10月前年比 (%)	累計乳量 (kg)	累計前年比 (%)
釧路丹頂農協	8,065,634.0	95.9	60,142,856.8	98.7
（鶴居地区）	2,616,748.1	96.1	19,927,452.6	98.5
（幌呂地区）	2,164,864.1	95.8	16,099,903.1	99.9
（白糠地区）	1,934,262.8	97.3	14,248,701.7	99.8
（音別地区）	1,349,759.0	94.0	9,866,799.4	95.4
管内計	43,187,855.5	98.1	318,494,574.5	99.9
（前年度管内計）	44,045,869.4		318,766,653.6	

家畜販売市況情報

乳牛

22年11月1日現在

□予想相場

(単位：千円)

規格	種別	登録牛	
		上	中
育成（8～12ヶ月）		280	220
初妊		540～500	500～460
経産	2産～3産	410	360
	4産～5産	360	310

初生とく

22年11月15日現在

初生とく	規格	単価
	61kg～70kg	都度協議
	45kg～60kg	850円/kg
	40kg～44kg	750円/kg

(提供/ホクレン釧路支所)

黒毛和種

22年10月19日音更市場

(価格：円・体重：kg)

畜種	性別	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重	体重単価
肉素	メス	511頭	737,100	137,550	346,352	294	1,179
	去勢	700頭	586,950	156,450	426,140	309	1,379

(提供/ホクレン帯広支所)

大変お世話になりました。

高原 香

白糠支所 金融共済課金融係 10月31日をもって退職しました。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□厳しい冬へと向かうこれからの季節は、安全運転を心がけ、急激に変化する路面状況やエゾ鹿の飛び出し、スピードの出し過ぎなどに十分注意しましょう。

□全国的に大きな議論が巻き起こっているTPP問題ですが、その影響は農業という限定された分野に止まらず、一次産業から消費生活者に至る広範な分野への影響が懸念されます。この国のかたちや将来のあり方について熟慮が必要です。